

自由討論

河井 今日では井原さんが早く退席するというので、簡潔にお考えを聞かせて頂きたい。

井原 ちょっと感じたのは、私が市にいた時に、もう少し何か田村さんと連携してやったら面白かったのではないかと、ということだ。さっきの固定資産税の話とか、もっと連携して、あんな木で鼻をくくったような答弁でなくて、行政からも有効な答弁をしていたらよかったかと思う。交付税をもらってるからどうのこうのとか、工場でなくて公害のない基地の方がいいと言ったとか聞いて、そういうことをちらっと感じた。田村さんは本当に具体的にやってこられた方だから、いろいろ勉強になった。

この国には主権がない

大川 学ぶことばかりである。お話し聴きながら一番強く感じたのは、主権国家といいなながらこの国には主権はないのかなとということだ。オスプレイが配備された当時、本当に国民的な議論になったが、当時の民主党野田首相が、「米軍にどうこう言える立場がない」という発言をされて愕然とした。それがすべてを象徴してるのかなというふうにお話を聞きながら思った。

優遇される米軍とその家族

藤川 家賃は最高 15 万円まではお金が出る。ということは 15 万円の家を彼らは借りるわけだ。どこから出るかというのはあえて言わない。光熱費として 10 万円ほどもらっている。そういうことで最高 25 万円まで負担をいただいているというのが米兵及び米軍属の人である。給料は若い人で 22 万円もらってるそうだ。家賃 15 万円もらい、光熱費が 10 万もらっている。地位協定でとても優遇されているということが、腹が立つほどよくわかる。廃油処理のことだが、消火訓練は廃油処理と言ってるが、件数が増えている。木曜日もしくは金曜日にやる。黒煙が上がる。なぜ増えたのかというと、KC130 が去年 8 月に岩国にきたが、1 機入れたということはその後ズウーッと岩国にいてということで、出る廃油が増えだろうと思う。KC135 にも表れている。廃油処理が頻繁になったのもそのためだろう。

河井 廃油処理について戸村さんと大島の文珠山に上がって写真をとってもらった。黒煙がみえて、廃油処理だと言う。大分煙が出ていた。

30 年経っても日米安保条約はあるのか

杉田 こういう会があるのを平岡秀夫さんから半年前にきいた。今回初めて参加した。田村さんの話をうかがっていて、今年は戦争に負けて 70 年、日本が負けて独立を回復した。サンフランシスコ講和条約と同時に日米安全保障条約を結んだ。どんな気持ちで結んだのか。なぜそんな事を言うかということ、僕らの世代は中学高校まで戦後の歴史を学校で教えてもらってない。興味関心のある人が書物を手にしたり人から話を聞いて関心をもった。僕はそのタイプだ。これから 30 年経っても日米安保条約はそのままあるのかという、不安を感じる。戦争に負けたという事実と、負けてからどうなったかということ。昭和 20 年 8 月 15 日に生きていた人はどんどんいなくなっていく。我々はもっ

と検証をし研究して。稲生さんがホームページかいておられることで、おじさんからそういうこと言うのはやめなさいと言われたという。そういう人たちが圧倒的多数になった。そこを話すと揉める、もめることはやめとけ、というような、思考ストップしてる日本人が半分以上いる。そういう中でどうやって本当の意味での主権国家を構築してゆくのかということ、田村さんの話を聞きながら考えた。現場の声で、それをやめましょうやと言うことができるかもしれない。そのしくみだとか展望が、これからどういう格好で展開するのかわからないが、そういう立場で参加させていただきたい。

愛宕小学校の先生

白木 私はいつも「おはよう愛宕山」を読ませていたいただいてありがたい。私も同じ愛宕小学校だ。（田村さんが愛宕小学校は日教組が強かったと言った事に関して）当時愛宕小学校のある先生が、俗にいう偉くなれなかったのは、日教組だったからと、後にある人から言われた。非常に優秀な良い先生だった。私の先生だった。今日おっしゃったことを聞いてドキッとしたが、そういうことだったのかと理解した。

田村 時代だ。新憲法ができて新しい教育する時代に入って当時 20 代、ちょうど私たちの時に結婚される初任のときだった。

白木 もちろん、私は田村さんの先生には直接習ったことはないが別のクラスの人間が習った。自分は小学校で、生まれた時から一般市民として育てられたというのをつくづく感じている。それがあつたものとして育てているから、これをなくすのはどうやったらいいかということを考えるまでに至っていない。3 年前岩国に帰って話をしてみると、私たちと同じように、今の状況というのを是とする人が 6 割 7 割、多い。ならされてきているというか、それじゃ我々はどっちの方向へ向かってきはいいいのか。というのをこういう場で勉強していきいたいと思う。

中学の頃か、アメリカの兵隊さんが近所に住んでいて、話をしたとき、彼が、行政がおかしいことをした時、お前たちはなぜいろんなことに反対しないのだ、と言った。彼は「自分たちは、税金を払ってるから、政府とか団体、彼らがいる町とか、『No』ということは言うんだよ」と言っていた。彼らは自分の考えを持っている。体制派に育てられた人間にとってはびっくりするようなことがあつた。学校で習ったことはこういうことだ、それを是としなさい、ということだったのだ。そういう目で見ると、せつかく「おはよう愛宕山」を配って頂いて、少し読みが浅かったな。と思った。

国に対してモノを言わなければいけない

稲生 私は、安保問題、地位協定の問題、これを勉強していくと、日本の主権はどこにあるのか、アメリカの属国じゃないか、と考え込まざるを得ない。安保にはこちらが申し出れば話し合いに必ずという条項があるのだ。それを全然やってない。なぜそうなるんだろうか。「国民として我々の意見をもっと言わなきゃいけないんじゃないか」とある会合で言ったら、彼らは「今、岩国で安保とかそういうことを言える雰囲気にあるか」という。言っちゃいけないというのだ。安保を語るのは「あんぼんたん」と言ったが、そんな感じの発言がものすごくある。現実、騒音の問題。廃油処理の問題は大変な

公害の問題だ。日本国が汚れてしまう状況だ。それを黙ってほっとる。多くの人々がこの問題を知らないということもある。もっと言えないのか。そのことを気にしている。もっともっと国に対して発言をしていかなきゃいけないと思う。

河井 具体的なことが沢山あって、どう整理するかという課題が残っている。何らかの形で地位協定について政策提言する方向に持っていくという課題がある、ある程度絞って、これとこれとこれとを提言に盛り込みたいということがありはしないか。

基地公害を改善するのは世論の力

田村 正しい道に持っていかなきゃいけない。それが一番大きな目的だ。今、稲生さんがおっしゃったことと重なるが、今日私が提起した問題の中で廃油処理問題がある。初めて知った。消火訓練は誰も知らないことではない。岩国市民の日常生活にこれだけ影響があることを米軍がやってる。1月13日、14日、15日の米軍の訓練で、西岩国までひびく大きな騒音を出したりする。桑原部長が、今回はちょっと違うというような意向を示したという。犯人はわかってる。それを善処するかどうかは世論の力しかないと思う。それを結びつけていくということが最後の結論。

米兵は戦争をしたくなくてもやっている

2003年の3月23日。「いずみ」の「小僧寿し」から出てきた米兵が、いずみの前で街宣をしていた市民に英語のメモを渡した。イラク戦争の最中で、イラク戦争に肯定的か、もしくは仕事としてやらざるをえないのだという考えを持ってる人だった。「イラクは核を開発している」という嘘を言って、イラク攻撃を行った。

白木 英文メモで彼が言っているのは「イラクと戦うのはいい。アメリカが戦うのは、お前たちは良くないというだろう。しかしアメリカが北朝鮮と戦うのは希望するのだろう」という内容だ。

田村 街宣をやってる時に渡された。いろんなイメージを持っているのだろう。彼らはアメリカの政治ではないところで、日本人の動きを気にしている。我々は日本を守る盾になってやってるんだということだろう。だけど消火訓練のことは隠せるものではない。飛行機の訓練でもあれだけの爆音が来る。隠せないものを我々が知らん振りするというのは我々の責任だろう。

稲生 その点、爆音のことで、何でもっと文句言わんのかと藤川さんに怒られる。

藤川 やっぱり民意を示さなきゃいけない。

田村 我々も爆音回数をカウントするシステムをもたねばいけない。

基地内での廃油焼却

白木 基地に廃油処理施設を作ることはできないのか。

田村 それはあるのだ。その中で燃やしてるのだが。(写真を見せる)

藤川 黒いのは不完全燃焼。

河井 廃油を広いところへ流しているだけ。

田村 それで燃やしている。

藤川 本当は化学処理をしてほぼ無害の状態にして外にだすべきだ。それを彼らはやらない。

田村 年に2、3回やるだけなら美談。

藤川 毎週、しかも1回1時間ぐらいで何回も。

飛行高度の規制

河井 津田さんが環境保護の国内法でどこまで規制できるかと追及した。

田村 13日、14日西岩国まで大きな音がした飛行訓練について、市がオタオタしないのは、米軍は高度4000フィートぐらいということを計算してやってる。高度制限を守ってやっているという言い方だ。

藤川 「市街地上空の飛行は、4000フィート」、

田村 4000フィートを越えている。由宇の人がやかましいのはあれだ。グルグル回ってる。

白木 艦載機だったらそれどこじゃない。

藤川 訓練をやらないと滑走路に降りられないから。

田村 海の上とは条件が違うから、陸の上で訓練をやりたいと考える。

苦情電話で基地騒音を規制できるか

河井 騒音がうるさいということ今年もできるだけ言うようにしたいと思うが、最終的に基地騒音の問題を解決するためにどの程度効果があるのか。繰り返し言うしかないのか。近頃それで飛行の仕方を多少コントロールするようになったのかなと思うこともある。苦情電話が多かった時とか。それを繰り返しやって、岩国基地で飛行するのは得策でないか考えるような環境を作っていくのは一つの手法か。それともそれは甘いのか。

田村 それは甘い。国家予算1,000億円を岩国に落とすというのはどういう必要性があるからか、費用対効果から考えて。よそのところでやれんから岩国に持ってくるのだ。飛行の仕方が良くなったのではなく、逆に悪くなったと思う。これまでは市街地で飛んだことはなかったではないか。

沖縄県民の怒りと岩国市民の「ウエルカム」

大川 沖縄ではやりたい放題やった。それにたいする怒りが、今爆発している。それと同じ状況が岩国でも起こっている。荒れ放題。米軍自体が歓迎されないところへは行かない。「岩国はウエルカムだ」という認識なのだろう。

河井 そういう市民感情が根底にあると思うが。それにプラス行政の意思も似たようなところにあるので、岩国がウエルカムになっている。そうすると岩国から米軍を追い出すというのはまず絶望だ。

田村 行政には定年がある。嫌になったらすぐ定年でいなくなる。だけど我々は50年やってる。市民は20年、普天間が18年たった。その間もずっと基地はあるわけだから。行政は責任を取らない。3年ぐらい経ったら人が変わっていくし、偉い人でも60過ぎたらいなくなる。だから、市民が継続して勝負していくという方を選ぶしかない。

主体的な首長を選ぶ

稲生 行政に主体性があるかどうかだけれど、国の下請け機関のような状況。政治的にも要求することはできない。こうしてくれとかいえない。そうするとしっかり管理する、主体的な首長を選んで行くしかない。国の下請けにならない行政と首長を出さないといけない。そこに大きな問題がある。行政マンの問題ではない。行政をつかさどる人たちの責任ある働きが必要。

河井 首長選挙に象徴的に現れる問題だ。

反政府の首長は金がもらえない

白木 それにしたって、井原さんが市長になった時、補助金をカットされて、大変なことが起こった。

河井 沖縄県知事が翁長に代わったら、沖縄振興予算が 162 億円(4.6%)カットされた。

田村 去年の秋だったか。沖縄のシュワブ入口で毎日やっている座り込みに、翁長さんが初めて座り込みに来た。その時顔がこわばって、一生一代のような決意で来ていた。それでも、オール沖縄だから。沖縄の民衆の突き上げで今回衆議院議員 4 人が通った。中里さんなどは 74 歳でも自分で出た。それぐらいに押し上げた。年だからと言うが、私は 69 だから、はあやめたいが、それでも永田さん初めて出た。やっぱり支えるものがあつたからできた。

河井 裁判はどうか。爆音裁判、愛宕山裁判。

田村 だから継続的に。爆音裁判だって 6 年かかっている。決定まで 8 年かかる。意味はあるけれど抜本的な解決策にはならない。

政治家と市民運動

稲生 井原さんが言っている、良い政治家、意志ある政治家を作るということも必要ではないか。政治家自身も下請けみたいなもので、党利党略だけだ。国民のためにやっている政治家はいない。そういうことも大きな問題じゃないか。そんな意味で田村さんはちょっと変わった政治家だと思う。

田村 4~5 人いたら一つの市民運動が起こせる。看板を上げてやってる市民団体がいっぱいある。メーリングリストとか毎日 4~5 通来る。それを現実にするというのは難しい。それができるのは沖縄だけだ。

稲生 とても岩国じゃだめだ。

田村 沖縄ではぎりぎりだったから、負けた 4 人の自民党議員も全員通った。両方とも全員通ってる。なんということはない。比例票だ。今回の選挙では民衆の力はうまく結集できた。やっぱりそれは自民党タイ共産党。共産党が全国で 21 人通った。共産党の行動力は否定できない。新社会党の栗原さんが比例で通った。カイト哲夫さん、佐世保の蜷川さん等も議員になる。どこの地区でも 1 人も出さないというのは、我々の理想が下がっているためだと思う。

地位協定の見直しはできるか

河井 地位協定にはいろんなことが入っている。それを改定するとか見直すとかいうことをどう考えるか。

田村 国は運用の回転で足りる、地位協定を改正する必要ないと言い切っている。改正するというのは、安保をやめるかどうかというところまでやらなきゃできないだろう。

河井 部分的修正ではどうしようもないか。

田村 クーデターか何かで政権が変わらんと。今は日米関係は変化ないんじゃないか。

藤川 兵隊もしくは軍属がパスポートなしに日本に入れる。地位協定というのは、家族であれ軍属であれ軍隊であれ、まるきり外交官と同じ扱いだ。彼らは日本でアメリカの仕事をするのであれば、当然のことながらパスポートで入国して、当然のことながら日本に税金を納めるべきじゃないかということからでないとは始まらない。正式の入国でない、外交官扱いでは何にもならないないと思う。

稲生 そういう切実な問題から解決していくという話を持っていかないとだめだろう。

岩国基地と岩国市民

田村 負けている。5月3日のオープンデーを、我々市民が大衆的にやるのは、基地の中でピザ買ったり肉を食べたり、家でならいつもやっていることだ。ビールが2万本、3万本売れる。300円、400円、それは許せんと言ったら、知人が田村さんこの時はそれをいわないでくれ、こらえてくれと言ってきた。アメリカ肉が牛の病気で輸入禁止になった年に、米軍は米兵用の肉を輸入していた。我々市民は誰も食えないアメリカ産のUSビーフを基地の中ではバンバン売っていて、市民が並んで買っている。食管法とか食糧法とかどうなっているのか。日本の国民が食べてはいけないのに、米軍は食べられるのはなぜかと質問したら、キッチンとした手続きで輸入している、と言う。消費税を払ってるかと聞いたら、ちゃんと払わしていると言った、ということが議事録にある。一番問題は、そこ行って買う奴がいるということだ。我々は負けとるわけだ。ここで10時間議論しても、オープンデーにピザを買わないとかビールを買わないとかいうことにはならない。昭和26年から30年頃まで日教組の先生がいた頃ならそれでもいいが。

白木 子供の頃の事を覚えている。アイスクリームがおいしい。コココーラも。また場内はものすごいチーズのにおいがしてね。

田村 当時はラッキーストライクだって街では買えず、基地へタバコを買いに行った。

白木 錦帯橋の花見のとき、兵隊がパイナップルの缶詰をくれたものだ。

藤川 地位協定の中に第11条がある。米兵や軍属に必要なものは輸入しますと。免税扱いなのだ。(録音がここで終わり)

発言した人 (逆50音順)

藤川俊雄	岩国市平田	河井弘志	周防大島町日前
田村順玄	岩国市牛野谷	大川 清	岩国市岩国
杉田和久	岩国市今津町	井原勝介	岩国市今津町
白木茂美	岩国市平田	稲生 慧	岩国市岩国